

## 菅生のトウキョウサンショウウオ は絶滅寸前？

あきる野市菅生地区の現状

西多摩自然フォーラム 小澤祥司

## あきる野市とトウキョウサンショウウオ

1931年にカスミサンショウウオと区別され、トウキョウサンショウウオと命名された。基準標本はあきる野市草花産。

基準標本の産地は現在「立川カントリークラブ」となっている。以後草花地区では、トウキョウサンショウウオの情報はなかった。

1998年の一斉調査では、何とか草花で「トウキョウサンショウウオを再発見したい」と探したが発見できなかった(その後、再発見情報がある)。

菅生地区は草花地区と滝山街道をはさんで隣接する。

あきる野市では、旧五日市町の横沢入等に生息地があるが、旧秋川市(多西村)における基準産地周辺の個体群は菅生地区に比較的まとまって生息するのみという状況だった。

## 菅生地区周辺図



## 産卵地ごとの卵囊数の変化

No.	1995	2008	No.	1995	2008
K-1	14	未	K-10	38	0
K-2	70	0	K-11	8	0
K-3	10	6	K-12	54	0
K-4	5	2	K-13	29	0
K-5	20	2	K-14	107	未
K-6	84	0	K-15	16	0
K-7	67	0	K-16	25	0
K-8	30	8	K-17	14	4
K-9	39	0	K-18	8	0

合計 = 638 → 22 + α

## 産卵数激減の要因(推定)

### 1. 管理・耕作放棄の影響

水場の乾燥化、湿地の消失、開析の進行によって、産卵適地が失われた。

### 2. 開発の影響

前回調査以降に菅生トンネル以外には表面的に大きな開発はないが、残土の埋立などによって、地形・水文が変化したことは考えられる。

### 3. 外来種による影響

アライグマによると見られる捕食痕が確認されている。

このままでは、数年以内に菅生地区からトウキョウサンショウウオが姿を消すかもしれません